



平成29年12月22日

情報科学部長に木島正明氏（現首都大学東京 教授）が
就任することが決定しました

平成30年4月に開設する情報科学部の学部長を、下記のとおり決定しましたのでお知らせいたします。

記

氏名（ふりがな） 木島 正明 （きじま まさあき）
任期 平成30年4月1日～平成34年3月31日

【お問い合わせ先】

広島大学情報科学部設立準備室
担当：兒玉
電話：082-424-7611

広島大学情報科学部学部長に就任予定の木島と申します。宜しくお願ひ致します。

学部長就任の抱負ということで、情報科学について少しお話させていただきます。

「データに基づいて現実の問題を明らかにし、それを元に現実を改善する」という考え方を提唱したのは「近代統計学の父」と呼ばれるケトレーですが、それを最初に実践し医療衛生改革に貢献したのは白衣の天使と呼ばれたナイチンゲールでした。このためイギリスではナイチンゲールは「統計学の母」とも呼ばれています。

以降、統計学だけでなくいろいろな分野にこの考え方が広まり社会に大きく貢献して来ましたが、近年の情報科学の進展により格段に応用範囲が広がりました。成功例を挙げると、囲碁や将棋ソフト、自動運転、金融におけるフィンテックなどです。アルファ碁と呼ばれる人工知能が名人と同じあるいはそれ以上の力を発揮できるのは、実は、ケトレーの教えである「データに基づいて局面を明らかにし、それを元に最善手を探る」ということを突き詰めた結果です。他の多くの分野でもこの基本的な考え方を突き詰めることで技術革新を起こすことが可能です。

もちろん、これが可能になったのはコンピュータの計算速度が飛躍的に速くなったからですが、大規模データ（ビッグデータ）を効率的に処理したり計算したりする技術、およびデータのコンテンツを分析理解した上で問題を解決する能力の向上も必要です。新学部では前者をインフォマティクスコース、後者をデータサイエンスコースで学びますが、これらは車の両輪であって、どちらが欠けても前には進めません。情報科学部では、この2つのコースの有機的な学習を通して「データで未来を拓く人材の養成」を目指して参ります。

ところで、データに基づく科学的な考え方を日本人は不得手として来ました。マスコミ等でAIの話題が取り上げられるようになり、ようやく社会に浸透しようとしています。データに基づく科学的な考え方の重要性が高校生を含む一般の方々に正確に理解されているとは言えません。このため、情報科学部で得られた科学的な知見や応用の可能性などについて広く社会に広報することに努めて参ります。

以上のように、情報科学には大きな可能性が潜んでいます。応用分野も多岐に渡ります。広島大学に新設される情報科学部はこの魅力あふれる分野を研究し、情報という切り口をとおして社会に貢献することを目指します。新学部長として、この目標達成のため鋭意努力して参る所存です。皆様方のご指導ご鞭撻をお願いして、私の抱負とさせていただきます。